

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101028		
法人名	株式会社 関西サンガ		
事業所名	琵琶湖大橋翔裕館グループホーム		
所在地	滋賀県大津市本堅田4丁目4番18号		
自己評価作成日	平成 28 年 12 月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2570101028-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	平成29年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地に立地し、琵琶湖や保育園なども近くにあり、街にも出掛けやすい環境にあります。入居者様の嗜好に合わせて買物や外出、外食、散歩、釣りなど個別の趣味にも対応し、本人の個性や気持ちを大切に、楽しく自分らしく過ごして頂けるよう努めています。また、地域との繋がりを大切に、地域に必要とされる施設を目指して関係づくりに努めています。ユニット内は落ち着いた雰囲気、「馴染みのある」職員との信頼関係のもとに、入居者様の暮らしが居心地の良い我が家のように感じて頂けるよう、また入居者様、家族様の声に耳を傾け、支援に活かしていけるよう職員全体で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近隣に公園や保育園、大型スーパーやレストランなどがあり、入居者が外出を楽しむことができる環境にあります。内湖にも近く散歩をしながら自然に触れ、釣りや水鳥の観察なども行うことができます。特に地域とのつながりを大切に、毎月広報誌を作成し地域に向けて事業所の取り組みを発信しています。更に、近隣公園の清掃に入居者と共に参加、地域の夏祭り再開へのお手伝いなど惜しみなく地域行事への協力を行うことで、事業所の「施設祭り」には機材を借用したり、お手伝いを頂いています。近隣の保育園からは行事のお誘いを受け交流を楽しみ、入居者手作りの雑巾を提供するなど良好な関係を築いています。「介護記録」や「申し送りノート」「カンファレンスノート」は全て手書きで、随時書き込む事で情報が共有できる体制を取っています。管理者は職員が働きやすいよう配慮し、職員もそれに答えてチームとして入居者の思いを大切に自立に向けた支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「基本方針」「品質方針」を掲げ、毎朝の朝礼で唱和し、その旨を職員が理解し実践に繋げている。年度初めの研修において、理念・方針・目標について周知を図っている。	法人の理念を事業所の理念として掲げ、毎日朝礼で唱和し、共有することで実践に繋がっています。毎年事業所の目標を作成すると同時に、各ユニットごとに年間目標を作成し掲示しています。毎月の「全体会議・全体研修」で目標を共有し、達成できているかの評価を実施しています。	毎年事業所の目標や各ユニットごとも年間目標を策定されています。「本人本位のケア」を実践されていることを踏まえ更に、事業所独自の理念を策定され、事業所内のわかりやすい場所に掲示されてははいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会との交流も増えている。毎月の地域の清掃活動や自治会行事にも参加し、自治会や施設の祭りにおいても互いに協力し合える良好な関係を築けている。	10月に開催される「施設まつり」には、 TENT や機材が借用できるなど、自治会の協力が得られる関係が構築されています。又、地域の夏祭りには事業所が企画から参加させていただき、ボランティアの一員として協力するとともに、入居者も地域行事を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口・AED設置等、また、こども110番の家に登録し地域に発信している。施設見学会の受け入れを行ったり、相談や見学等、随時対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に地域包括センター、民生委員、家族代表、入居者代表、当施設職員にて会議を開催し、施設の報告のみならず、様々な意見交換を行い、サービスの向上、施設運営に活かしている。	運営推進会議では、状況報告を行うと同時に事業所が困っている事を発信することで家族や地域から忌憚ない意見を頂き、サービスや運営に反映させています。離設時の対策に関しても、地域から行政の取り組みとして、「24時間のダイヤル」があるなどの情報を得て運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括や大津市担当窓口の介護保険課に、相談や報告を行い、互いに協力し合える関係を築けるよう取り組んでいる。	行政の担当課へ電話で相談を行ったり、各種手続きの際に窓口を訪問するなど協力関係を築いています。更に、行政主催の「情報提供会」に参加、研修案内も受け、積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の機会を設け、全ての職員に周知・徹底し、十分に理解した上で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。安全に安心して過ごしていただけるよう、見守りと寄り添いのケアに力を入れている。	研修は年間計画に組み込まれ、職員への周知がされています。特に「接遇」に力を入れており、言葉かけに配慮して丁寧に対応しています。家族から防犯をしっかりとしてほしいとの要望があり、身体拘束の説明をしっかりと行った上で、「センサー設置の確認書」を策定し、同意を得て玄関にセンサーを設置するなどの対応を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、全ての職員がしっかり理解して取り組んでいる。また、常日頃より利用者や職員の状況を把握し、必要に応じて職員面談を行うなどメンタルケアにも力をいれ、未然に虐待を防げるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や権利擁護に関するマニュアルをいつでも閲覧できるようにし、周知徹底を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、重要事項の説明を理解しやすいように丁寧に言い、不安や疑問がないか等、しっかり確認を行った上で理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日常的に、家族には面会時やアンケート等で意見を頂いている。アンケート結果については公表すると同時に運営推進会議等で話し合い、運営に反映させている。	面会時には職員から進んで声かけを行い又、年1回家族アンケートを実施することで意見や要望を聞き取っています。家族より習字をさせてほしいとの希望を受け、筆が持てないという入居者の気持ちにも配慮しながら、家族と職員と一緒に居室で習字を行うことで自信になり、意欲に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に会話する機会を多く持ち、意見や提案を聞き取り、必要に応じ随時面談を行っている。また、申し送りノートやカンファレンス等も活用し、職員が意見や提案を発信しやすい環境づくりに努めている。	施設長や管理者が日常的に現場に入ることや、会話の中から意見や要望を聞き取っています。更に、各ユニットリーダーに職員の管理を任せることで、メンタルケアを含めて相談しやすい仕組みとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とともに職員個々の状況を把握し、必要に応じ面談を行いながら、やりがいや向上心がもてるよう職員の教育や環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・全体研修・伝達研修や個々のステージに合わせた研修等、職員のニーズに合わせ、様々な形で職員教育を行っている。また、掲示板でも外部セミナーの情報提供を行い自己研鑽を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業種間での部会開催や、他施設への見学、地域医療介護ネットワークや研修会に参加し、交流や意見交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族より、生活歴や趣味、本人の思いについての情報を事前に共有しておき、その時々本人の思いを傾聴し、共感することにより、安心していただける信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴や趣味・嗜好、本人や家族の思いなどをコミュニケーションを図りながら情報を得てご本人を知り、一緒に相談しながら支援していけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを傾聴し、「今」何を望まれているのかを知り、支援に繋げていけるよう努めている。生活環境の変化に伴う不安や要望に柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として尊敬し、尊厳を大切にケアの実践に努めている。日々の生活を共にすることによって信頼関係を築いていっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお伝えしたり、家族の思いや意向を聞き取ったりしながら、情報を共有し、一緒に支援のあり方を考えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具等を持ち込み、居心地よく安心できる環境づくりを行っている。馴染みの方の面会や、馴染みの場所を大切に、自分らしさを継続していけるよう支援している。	3か月ごとにアセスメントを実施、又本人や家族に積極的に聞き取りを行うことで情報を得て、個別に外出支援を行っています。更に、馴染みの神社や美容院以外にも馴染みの方の協力を得て、俳句の会にも参加されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性を把握し、入居者同士が交流する機会を作り、入居者同士の関係が良好に保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで生活してこられた環境や生活歴・趣味・嗜好の情報把握に努め、本人の思いを傾聴し、自己決定できるように支援している。困難な場合も出来る限り思いを汲み取れるよう努めている。	家族面会時に職員から声かけを行い、生活歴や暮らし方などを聞き取り、都度介護記録に記載することで全職員で情報を共有しています。更に、3か月毎にアセスメントを実施し、本人の思いの把握に努めています。家族より「野花を好んで描いていた」という情報を得て、職員が野花を摘んでくるなど本人の思いに沿った支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時に利用されていたサービス事業者との連携や、本人、家族からの情報収集により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察情報を記録に残し、申し送りやカンファレンス、モニタリングなどで職員間で情報の共有を図っている。必要に応じ家族にも協力いただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット全員でアセスメント・モニタリングを行い、カンファレンスにて支援のあり方や工夫を話し合っている。主治医からの意見も聴取し、現状に即した計画作成を基本3か月毎に作成している。	ユニット全職員が手書きで記入するモニタリング表を活用して、3か月毎にモニタリングとカンファレンスを実施し、ケアプランの見直しを行っています。更に、往診時や受診に付き添うことで主治医からの意見を聞き取り、ケアプランに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を介護記録に記入し、重要な項目には赤字で記入するなどし把握しやすい工夫を行っている。また、毎月のカンファレンスでは個々のアセスメントを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の現状に合わせ、その都度必要なことは何かを話し合い、家族や医師と相談しながら柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを柔軟に受け入れたり、近隣の保育園との交流等も行い、心が満たされ意欲をかきたてるような豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関を利用されており馴染みの信頼関係を大切にしている。医療機関とも連携し、状況に応じて家族と相談の上受診等にも柔軟に対応している。	入居時に説明を行い本人・家族の意向を尊重して対応しています。馴染みの医療機関を継続し受診する際は、家族の協力を得て、必要に応じ送迎などを行い受診の支援を行っています。更に、緊急時は24時間看護師に相談し、医療機関と迅速な連携が図られるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より健康管理を看護師と介護職員が連携して行い、細かな心身の状況も漏らすことなく伝え、適切な指示や適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院する時には、病院関係者との連携に努め、介護・看護サマリーの活用や環境の変化に伴う注意点を詳しく伝えあい、入居者が安心して入院・施設生活が送れるよう情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明し、施設としてできることへの理解をいただいている。本人・家族の意向の把握に努め、医療機関・家族と連携し、チームで望まれる支援が提供できるように取り組んでいる。	契約時に利用者及び家族に説明を行い同意を得ています。看護師や協力医療機関とは24時間連携できる体制が整っており、重度化した際は、随時家族と話し合い、その都度状態に合わせて「看取り計画書」を作成し同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応についてのマニュアルを整備し、全体研修等にて全職員に周知徹底している。いざと言う時のために、応急処置やAEDの使用についての研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、消防自主訓練を様々な想定で実施しており、年に2回は消防署立会いの訓練を行い、訓練の指導・講評を頂いている。地域との関係性も良好で、協力関係も築けてきている。	年2回消防署立ち合いの消防訓練を夜間想定含めて実施しています(隣の施設でも年2回実施され、連携して訓練を実施しているため実質は年4回となっている)。更に、マニュアルが策定されており、毎月様々な想定で自主訓練を実施しています。又、地域の合同訓練に参加、自治会からは携帯の持ち出し袋の提供を受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の教育に力をいれ、入居者様に対し敬意を持ち対応させていただいている。個々の人格や尊厳を大切に、プライバシーの保護にも配慮できるよう教育の徹底を行っている。	尊厳を大切にすることと接遇については、入社面接時から説明を行っています。研修として年間計画に組み込まれており、特に声かけの仕方に工夫や配慮がされています。職員の言動については、管理者は職員の気質や性格を把握しており、一人ひとり指導の仕方を変えて対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを傾聴し、思いの実現や自己決定ができるような言葉かけや関わり方を実践している。本人が気兼ねなく思いや希望を表現できるよう、職員との信頼関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員側の都合よりも、個々のその時々々の思いや状況を職員間で共有し、思いに沿ったケアを実施できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や行きつけの美容院で、好みの髪型を維持できるように支援している。また、朝にはその日に着たい洋服を選んただけよう言葉かけを行いおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回「お楽しみメニューデー」とし、各ユニット毎に、自由に入居者の食べたいものと一緒に作れる料理をメニューに取り入れ、食事を準備から片付けまで楽しんでいただいている。	入居者の嗜好を把握し、「お楽しみメニューデー」以外にも意向を確認しながら旬の食材を取り入れたり、食べやすいように料理をアレンジするなど工夫しています。又、おせち料理や季節のお弁当を外部に発注することで、食事を目で楽しんでいただけるよう支援しています。更に、「道の駅」まで出向き外食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は個々の状態に合わせて工夫の上提供し、摂取量の把握も記録に残している。また食事制限のある方には、食事内容や量を職員間で話しあい、体重管理にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じ、声かけや介助にて口腔ケアの支援を行い、夜間は義歯の消毒を行っている。訪問歯科とも連携し、口腔内の清潔保持と指導をいただき清潔が保てるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔や排泄状況を把握し、記録にて情報を共有し、個々に合わせた誘導や声かけを行っている。日中、可能な方には布パンツを使用していただき、自立に向けた支援を行っている。	特に排便コントロールに重きを置き「申し送りノート」や「介護記録」「排便チェック表」を活用して、水分不足はないか、食事で解消できないか、服薬が必要なのかを検討して対応しています。排尿に関しては介護記録をもとに一人ひとりのパターンを把握して、布パンツを使用するなど自立に向けた支援を実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの参加やお腹のマッサージ、乳製品や水分・繊維質の多い食品の取り入れの工夫を行い、便秘予防に努めている。一覧表にて排便状況を把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を尊重し、個別ケアでゆっくり入浴していただいている。入浴剤の活用も好評である。入浴チェック表や介護記録にて状況を把握し、清潔が保持できるよう支援している。	午前・午後を問わずいつでも入浴ができるよう支援しています。入浴を個別対応することで、ゆっくりとした時間を入居者と共有し、会話を楽しみながら、同時に入浴が楽しめるよう支援しています。又、ゆっくりとコミュニケーションを取ることで本人の意向の把握にも努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせ臨機応変に対応している。日中傾眠気味の方には、体を休めていただく時間を設け、無理なく生活できるよう柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬のコピーを現場に置き、把握しやすい環境を作り、変更・変化があれば職員間で共有できるようにしている。また、服薬支援ではダブルチェックを行い、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や好みを把握し、日常生活の中で役割をもち、自身のやりがいと喜びに繋がられるよう職員と一緒に楽しんでできる家事等自立支援や楽しみの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の趣味嗜好をもとに、外出支援を行い、ゆっくりと無理なく個々のペースで楽しんでいただけるよう個別対応で実施している。家族や友人との外出支援も協力している。	本人の意向を確認して内湖や近隣の公園・保育園まで散歩、又買い物にも出かけています。家族支援を受けて外食を楽しんだり、花見や紅葉狩りなど季節を通してドライブにも出かけています。更に、馴染みの方の協力を得て俳句の会や宗教の集まりに参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や行きつけの美容院へ行かれた時には、ご自分で支払いが出来る方や支払いを希望を希望される方に対しては家族の了解のもと、支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間等の制限はなく、好きな時に電話をかけていただけるよう支援している。携帯電話を所持しておられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の入居者の状態を把握し、入居者全員が落ち着いて安心して過ごせるよう環境の工夫(混乱や不安の排除)を行っている。また、温度調節や清潔にも努め、居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	女性入居者から「共有のトイレが男性入居者の排尿で汚染されている」との訴えがあった際に、多目的トイレ以外を女子トイレと掲示して対応することで、一人ひとりが心地よく使用できるよう工夫しています。共用の空間は整理整頓がされており更に、一人ひとりの居室が分かるような配慮も行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを設置し、一人でも、利用者同士でも、くつろぎ過ごすことができる場所を提供している。また、入居者同士、新たな交流の輪が広がるよう状況に応じ席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、馴染みの家具や小物を居室に入れて在宅時に近い住環境にし、居心地のよい居室にしている。また、本人の状況の変化により、安全に過ごしていただけるよう家族と相談し環境づくりを行うこともある。	家族が主体となって使い慣れた調度品を持ち込み、家族やペットの写真、自作の絵画や刺しゅう作品をさりげなく飾っています。又、家族に相談し、自分の居室が分かるようにと本人に表札を書いてもらったり、好みのぬいぐるみを目印として居室入口に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力の把握に努め、出来ることは職員がサポートしながら行い、わからないことは、わかるための工夫を行い不安なく安全に自立した生活が継続できるよう取り組んでいる。		